

大学入学共通テストについて

英 語 科
近藤 栄作

1) 文法問題がなくなった件

センター試験では、第2問で文法や語法の知識を問う問題（47点分）が出題されていましたが、試行テストでは問われなくなりました。生徒たちの中には、文法を軽視する声が聞こえるようになりましたが、本当にそれでいいのでしょうか？

今回は「文法の知識」の問われ方について、どのような出題が予想されるのかについて伝えたいと思います。

2) 2019年センター試験では…

第2問 A 問3

After () dropping the expensive glass vase, James decided not to touch any other objects in the store.

- ① almost ② at most ③ most ④ mostly

正解は①

「危うくガラスの花瓶を落としそうになったので、ジェームスは店で他のものに触れないように決心した」という内容になると考えられますね。ポイントは「落としていない」こと。almost は副詞で「ほとんど」という意味はしっかりと覚えていると思いますが、「もう少しで」という意味もあり、「まだ、その状態になっていないこと」を表現できます。文法や語法の知識を問う問題が出題されなくなるのならば、こういった細かな部分は覚えなくていいと考える受験生がいるのも当然かと思いますが…

3) 試行テストでは…

平成29年度施行調査「リスニング」Version B

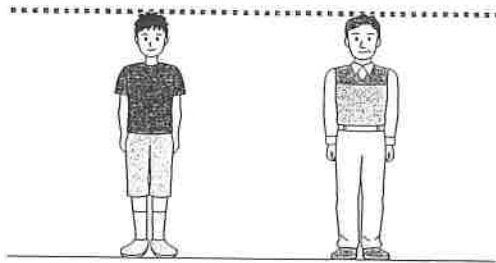
第1問B 問8（この年は問1～問29までの通し番号）

～放送される文（ The boy is almost as tall as his father. ）～

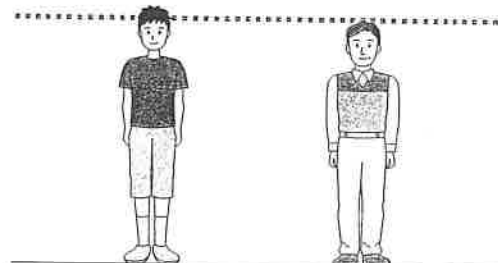
問 8

8

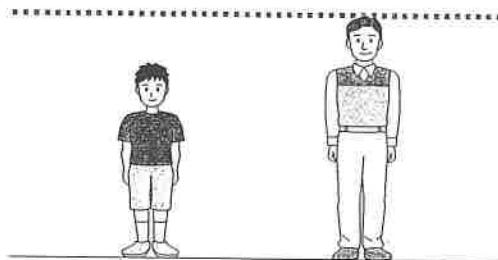
①



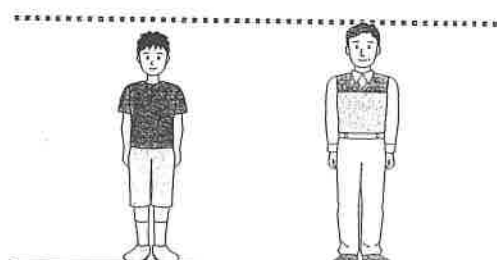
②



③



④



答えは④です。先ほど確認したように almost は副詞で「ほとんど」という意味ですが、「もう少しで」という意味もあり、「まだ、その状態になっていないこと」を表現できるという点から、少しだけ身長が届いていないという意味だと分かるはずです。

大学入学共通テストでも、問い方は変わるけれども、求められる力は同じであり、文法も軽んじることなくしっかりと学んでほしいというメッセージが込められていると感じました。

4) まとめ

一つの例だけですべてを語るつもりはありませんし、授業に「文法」というものもなくなっていますが、英語の学びについては、基本を大切にしっかりと取り組むことが肝心です。今回、リスニングの第1問Bについて例題で確認できましたので、次回はもう少し掘り下げる予定です。